

セルフジャッジの方法

セルフジャッジ5原則

- ①判定が難しい時は「グッド」(相手に有利に)!
- ②「アウト」または「フォールト」はボールとラインの間に、はっきりと空間が見えた時!
- ③サーバーはサーブを打つ前に、レシーバーに聞こえる声でスコアをアナウンス!
- ④ジャッジコールは、相手に聞こえる声と、相手に見えるハンドシグナルを使って速やかに!
- ⑤コート外の人は、セルフジャッジへの口出しはしない!

- 1) ネットより自分の側に関する判定は、すべて自分の責任である。
- 2) ボールがラインにタッチしたとき、あるいはボールを見失って判定できなかった時は、「グッド」である。
- 3) ボールとラインの間に、はっきりと空間が見えたときは「アウト」または「フォールト」である。セルフジャッジでは自分に有利な判定は避ける。
- 4) 判定とコールは瞬間的に、また、相手に聞こえるような声と明確なハンドシグナルで行なう。人差し指を出してアウト、フォールトを示し、手のひらを地面に向けてグッドを示す。
- 5) 2バウンド以降、あるいは返却して次のプレーが行われた後に「アウト」「フォールト」を行った場合は、そのプレーヤーの失点となる。
- 6) 「アウト」または「フォールト」とコールした直後に、プレーヤー自信が「グッド」と訂正した場合は、そのプレーヤーの失点となる。
- 7) ダブルスの判定とコールは、1人の選手が行えば成立する。しかし、ペアの判定が食い違った場合は、そのペアで失点となる。
- 6) ただし、ネット触れたサーブを、1人が「フォールト」、パートナーは「レット(イン)」とコールした場合は、「サーブのレット」となる。
- 7) 新しいゲームの始まる前に、サーバーはそれまでのゲームスコアをアナウンスする。ポイントのアナウンスはサーブの始まる直前に行う。(15-0など)
- 8) レシーバーはサーバーのスコアアナウンスに対して、確認する。はっきり聞こえない、または違っている場合は、速やかに確認・訂正する。
- 9) クレーコート以外でのボールマークの判定・要求はできません。判定が遅れた後に、ボールマークを示して「アウト」「フォールト」をコールしても無効となる。
- 10) インプレー中、他コートからボールが入ってきたら「レット」をコールし、ポイントのやり直しができる。コールは両サイドともできる。
- 11) プレイ中は障害物に気づかなかった選手がポイントを落とし、ポイントが完了したあとにレットによるリプレイを要求することはできない。
- 12) インプレー中、プレーヤーがラケット以外の帽子、ボールなど地面に落とした場合は、それがプレーに影響を及ぼしていない場合は、ポイントが成立する。
- 13) 帽子やボールなどの落下が1回目のときは、レットをコールしてプレーを停止し、そのポイントをやり直すことができる。2回目以降は、落とすたびにそのプレーヤーが失点する。
- 14) レシーバーが返球の構えに入る前に、サーバーがサーブを打ってしまった場合も、レットがかけられる。ただしレシーブしてミスをした後に「今のはレット」とすることはできない。
- 15) スコアがわからなくなったときは、双方のプレーヤーが合意できるスコアまでさかのぼり、それ以降のプレーで双方が合意できるポイントを足したスコアから再開する。合意できなかったポイントは取り消される。再開するとき、サーブするコートはスコアに準ずる。ゲームスコアがわからなくなったときも、同様に処理する。
- 16) 次の場合は、レフェリーまたはロービングアンパイアに速やかに申し出て解決する。
 - ①試合中、トイレ、着替え、ヒートルールなどでコートを離れるとき
 - ②相手選手の言動やコール、フットフォールト等に疑問、不服があるとき
 - ③プレーヤー同士で解決できないようなトラブルが起こったとき
- 17) メディカルタイムアウトを取りたいときは、レフェリーまたはロービングアンパイアに申し出る。トレーナーのいない大会ではプレーヤー自身が手当てをすることができるが、レフェリーまたはロービングアンパイアによって、手当てを必要とする状態かどうか確認後、その許可を得て4分以内に処置を行う。
- 18) ノードバンテージ方式、セミアドバンテージ方式(1回デュースあり)について
- 19) ①レシーバーはどちらのコートでレシーブするかを速やかに選択しなければならない。一度選択した後に変更することはできない。
 - ②誤ってスタンダード方式で行い、誤りに気づいた場合は、デュースであればノード・セミアドに切り替える。アドバンテージAの時はもう1ポイントプレーする。
 - a) プレーヤーAがポイントを取ればゲームとなる。
 - b) プレーヤーB がポイントを取ればノードに切り替える。
- 20) 8ゲームプロセットの試合方法
2ゲーム以上の差をつけて8ゲームを先取したプレーヤーがその試合の勝者となる。
7ゲームオールとなった場合は、9-7で決着、もしくは8ゲームオールタイブレイクを適用し、スコアは9-8(5)と記録される。(5)はタイブレイクの敗者のスコアである。